

神々の古事記
本殿（左殿）

「八俣の大蛇」

高天原を追放された須佐之男命は、出雲の国に降られました。そこに流れる肥河の上流で、老夫婦が若い娘と涙していました。老命が訳を尋ねると、「私どもには初め娘が八人おりました。ところが不幸なことに、八俣の大蛇という怪物が毎年、娘を一人ずつ餌食といたします。最後に残った娘も餌食になるのかと思うと悲しくて泣いております」と答えた。命は老夫婦に「私は天照大御神の弟である。娘を妻に出来ないだろうか」と言われると、老夫婦は「これは恐れ多いことでございます」と提案を受け入れました。命は老夫婦に命じて、強い酒を醸し出し、八つの門を作り、八つの酒槽を用意させ、大蛇退治の策をめぐらしました。そして、酒に酔って寝てしまった大蛇の首を次から次へと切りはなしました。さらに、大蛇の胴体を切り刻むと太刀がでてきました。この太刀を草那芸の剣と言います。



廣峯神社の本殿（右側）には、老夫婦の足摩乳命と手摩乳命、その娘で素戔鳴尊の御后神である奇稻田媛命をお祀りしています。奇稻田媛命は、美しい稲田を表す農業の神さま、また、素戔鳴尊と縁を結んだことから縁結びの神さまや暦の恵方の神さまとして崇敬されています。老夫婦は、稲田を大切に育てる農業の神さまとの信仰を集めています。